

開成まちづくり協議会 生活・環境部会では 「抹茶を楽しむ会」を開催しました！

外に出るのがためられるほどの暑い日が続いておりますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか？この猛暑の中、令和7年7月30日にカムチャッカ半島沖では巨大地震が発生し、日本の太平洋沿岸地域などでは津波警報が出され、社会生活に多大な影響が生じました。

さて、生活・環境部会では、7月25日(金)に神野公園にある隔林亭で「抹茶を楽しむ会」を開催しました。朝から青空が広がっていて、なんという暑さかな！が、隔林亭の敷地に一歩足を踏み入れると、敷石には打ち水がしてあり、体感的に温度が下がったようで涼しい気持ちになりました。職員さんの気配りに気持ちが和みます。どんな茶会になるのかと、楽しみです。



《隔林亭の玄関までのアプローチは長ーく、期待感で胸が高まります。玄関が見えてきました。》▲

障子戸を開け、中に入りました。「ああ、涼しい」と思わず一声、冷房が効いています。玄関の北側にある6畳と4、5畳を続間として利用してのお茶会です。池の上に張り出している板間の障子を閉めるとほんのり暗く、冷房が身に染みて気持ち良い空間になっています。

参加者の皆さんが揃われたので「抹茶を楽しむ会」が始まりました。最初に隔林亭の職員さんから説明がありました。

池の中島にある隔林亭は鍋島直正公により1846年に建てられ、その頃は直正公の号をとって茶雨庵(さうあん)と呼ばれていた。明治の初めに直正公の側近だった中野数馬に譲渡され、建物は城内に移築され隔林亭と名付けられた。その後、県立佐賀高等女学校に渡りましたが、1960(昭和35)年に同高校の閉校とともに隔林亭も解体され114年の歴史に幕を閉じた。

そして、建立から140年となる昭和61年に隔林亭文書が発見され、1枚の写真、古図、解体後の部材をもとに平成元年の市制100周年記念事業の一つとして神野公園内にこの隔林亭が復元された、とのこと。 (注、パンフレットより引用)

隔林亭から外を見ると、まるでお城の中庭を眺めているような気分になります。隔林亭を訪問していただき、周囲の景色を見てもらえば、この感覚がお分かりになると思います。いい気分だなあ。

ここで隔林亭の職員さんから干し菓子が配られました。夏らしい色合いと可愛い形に思わず笑みがこぼれます。子ども用も用意してくださいました。見ているだけで楽しく、幸せな気持ちになってきます。お菓子は一口で頂くそうです。で、静かに口に…、ほんのり甘かった。



《職員さんからお菓子の説明がありました》



《上 大人向け 下 子供向け》

ここで講師の裏千家 山口宗和(そうわ)先生の登場です。シックな着物をお召しになって、いつもの山口さんとは違い別人に見えます。開成小学校の高学年に抹茶を教えている、とのこと。宗和先生の登場によって場の雰囲気が一気に変わり、待ちに待ったお茶会の開始となりました。



《皆さん、ご参加いただきありがとうございます、と笑顔で挨拶される宗和先生》

茶道の代表的な流派の一つ裏千家、時代に合わせた風潮を積極的に取り入れるのが特徴とされ、その名前の由来は、裏通りに面している茶室であることから「裏千家」と呼ばれるようになったとのことで、茶道を「ちゃどう」と読むのが一般的だそうです。



《道具を清める》



《お茶を点てる》



《お茶を点てる》



《お茶を点てる》

ところで、日本のお茶は、今から約 1200 から 1300 年前の奈良時代から平安時代にかけて中国から伝来したとされています。そして、今の抹茶の原型は、鎌倉時代に臨済宗の開祖である栄西が 1191 年に中国から伝え、飲み方などが幅広く広まったとのこと。

その後、戦国時代に千利休がわび茶と呼ばれる茶道の様式を完成させ、抹茶を飲むことは、「おもてなし」という代表的な日本文化として今に至るまで脈々と息づいています。

折角の機会ですので、茶道の大切な心得を千利休の言葉である「四規七則」について紹介します。

「四規」とは、和敬静寂の精神のことで、①和やかな心であること、②お互いに敬い合うこと、③清らかであること、④動じない心を持つこと。

「七則」とは、客人をもてなすときに大切な七つの心構えのことで、①心を込めてお茶を点てる、②本質を見極める、③季節感を大切に、④命を尊ぶ、⑤心にゆとりを持つ、⑥柔らかい心を持つ、⑦互いに尊重し合う、となっています。

「四規七則」を学んだうえで、茶道の大切なポイントをご紹介します。

- ① 相手への心配りを忘れない。お互いが思いやりの心を持てるようになると、周囲の人たちも温かい気持ちで接してくれます。
- ② ものを大切にする。何事も本質を見極めて、自分が本当に必要なものだけを身の回りに置く。
- ③ 出合いや時間を大切にする。出合いや誰かと過ごせる時間に感謝し、一期一会を大切にする。

(出典 「アソビューー 茶道とは? 知っておきたい作法や歴史、流派をご紹介します」)



《お点前はいかがですか》



《心静かにいただきます》



《味わいながら感慨に耽ります》



《こうして回すのよ》

時間をかけてお点前をいただいた後、しばしの歓談の時間です。めいめい隔林亭の感想やお点前について、隔林亭の天井はなぜ低いのか、など謎解きとともに抹茶談議を楽しみました。

抹茶とともにお菓子の奥深い甘さの余韻が残ります。皆さん、満足されたようでよかった。



《ゆったりと楽しい時間が持てました》



《変わった味だったけど、全部飲んだよ》

懇談も終わったところを見計らって、閉め切っていた障子を開けると涼しい風が吹き抜け、「涼しい」と感嘆の声が漏れてきました。今日も雲一つない晴天ですが、隔林亭のこの板の間は信じられないほど涼しく感じられます。池の上に設けられた舞台のような造作なので、よく風が通り「心地よい」とはこういう状態をいうのでしょうか。多くの人が利用したらいいのになぁ、と思いました。

すぐ下の池を見ると、コイ、雷魚、すっぽんなどが悠々と泳いでいるのが見え、ハスの葉にトンボがとまっています。カメが甲羅干ししているのが見えます。可憐な花は咲き終わったとのことで、青々としたハスの葉が風に揺れています。いつまでも眺めていたい自然環境に心が和みます。

子供さんたちが参加されていますが、コイやすっぽんなどがすぐ下にいるので、興味津々に見ている様子から環境教育になったんだなぁと嬉しくなりました。水辺に生息する生物の動きを見ていると生態の様子がよく分かり、大人でも興味津々です。

思い思いの服装で、様式にこだわらないお茶会、「抹茶の会」に参加された皆さんありがとうございました。また、お忙しい中、熱心にご指導いただいた山口宗和先生、ありがとうございました。さらに、抹茶の会をスムーズに進行できたことは、隔林亭のお二人の職員さんのおかげであり、感謝します。素敵な時間を過ごすことができました。

隔林亭の雰囲気とともに、宗和先生や抹茶と干し菓子に魅了されたお茶会でした。



《景色を眺めながら、参加者の皆さんの笑顔がすがすがしく感じられました！》